

「議会と市政選択」



3月議会で、22年度予算の審議が行われました。予算審議は、20、21、22年度と今回で3回目となりました。今年度の市政運営は、昨年度と比較して、市税歳入8億円の減額、基金から13億円の取り崩し、そして借金16億円の増額という財政運営となり、非常に厳しい状況にあることを認識させられました。

市民の皆様にも、私が議会審議から思う市政の現状を知って頂ければ幸いです。

現状の習志野市政は、今年度の市税歳入や基金残高、今後の借金に伴う元金・金利返済の状況、さらには定年退職者の退職金歳出、加えて長寿社会での介護・国民健康保険財政の増幅における保険制度運営維持のための一般会計からの繰出金増額が予測できる財政状況にあります。今と同様の行政サービス・手法を継続し、市民需要の高い「介護・保育サービス」の充実展開をしていくなれば、市政運営の結果は、明らかです。借金を頼りにした市政運営、そして、借金返済に窮する財政運営、その結果、人件費と借金返済、施設の維持管理、そして、国の強制事業の4点セットのみで追われる市政運営です。新たな市民需要に応えられない市政運営を私たちは、子どもたちに引き継ぐことになるのです。

私は、市民として、後の世代に「財政」と「公共サービス」に責任をもつ「自立した市政」を真剣に「決断・実行」する時期に来ていることを市民の皆様にお伝えしたいのです。市議会の設置目的は、究極的には、公共サービスにおける市民の幸せを実現するためのサービス(事業や実施主体)選択決定機関だと思えます。そういう意味でも、議員は「市民の皆様」や「後の納税者となる子どもたち」の市税負担のバランスと公共サービスにおける市民の幸せを追求していく上で、意志決定とその実現するための政策提言をしていく立場にあると認識しています。

今、習志野市政が必要なのは、「先送り」ではなく、事業廃止、人件費・業務見直しの「決断と実行」という時代責任です。議員任期での本予算審議は、23年度予算の残り1回となります。まちづくりの方向性を選択決定する責任ある立場として、自立した市政運営のあり方を研究調査し、自らの意志で、議会において主張し、市政選択をしていく決意です。

3月に市長が掲げた「経営改革プラン」の中から、今後議会が市政選択を求められる一例

- 1、JR津田沼駅南口の文化ホール裏の市有地8216㎡(現駐輪場等活用地)の売却
- 2、袖ヶ浦西・東幼稚園の廃園と袖ヶ浦こども園建設、若松保育所、袖ヶ浦第二保育所の私立化
- 3、財団法人 習志野市開発公社、習志野文化ホール、習志野市スポーツ振興協会の今後の方向性とあり方
- 4、図書館・公民館の管理主体の民間活力導入

◎ ご意見・ご感想をお寄せください！

習志野市袖ヶ浦2-4-1-201 TEL・FAX 047-454-8358

✉ hiroshi-ito@hiroshi-ito.com <http://www.hiroshi-ito.com/>

インターネットから
議会中継を
見ることができます
<http://www.hiroshi-ito.com>
→ 議会中継をクリック

習志野市議会議員

伊藤ひろし

習志野 ずっと住みたい まち計画



2010/5
第20号

22年度予算、条例廃止等、市長提案が議会で可決

子育て	3億2960万円 (医療費助成) 28億3920万円 (子ども手当)	就学前児童の医療費無料は廃止→12月から医療費の助成対象拡大(小学校3年生まで) 入院1日、通院1回につき、自己負担金300円 中学校卒業まで1人13万円支給(10ヶ月分) 21840人が対象
保育園 幼稚園 学校の改修	16億9733万円	東習志野の若松保育所改築工事、津田沼小全面改築設計、鷺沼台に杉の子こども園建設、複数の小中学校の耐震補強・アスベスト対策工事・プール改修
コミュニティバス	7188万円	実籾駅ルートは、廃止となり市内4ルート
国体、障がい者 スポーツ大会	1億5556万円	秋に、新習志野駅前の国際水泳場で開催
第2斎場の 建設整備	1691万円	予定地(八千代市桑橋)の遺跡発掘調査の負担金
JR津田沼駅 南口土地区画 整理事業	9億6056万円	区画整理組合への補助、近隣公園用地取得費など
教育	7586万円 (介助費)	障がいに応じた適切な特別支援教育の推進のため、介助員を小学校12校、中学校3校に配置
健康	1805万円 (がん検診)	特定対象年齢による女性特有のがん(子宮頸がん・乳がん)の無料検診
障がい者	300万円	聴覚障がい者40世帯へ、地上デジタル放送対応のため、情報受信装置(画面への文字案内)の支援
スポーツ	4374万円	千葉県が、芝園公園にテニスコート4面、フットサルコート3面を整備し、それに伴い更衣室・管理室などのクラブハウスの建設
図書館図書	3567万円	一般図書 7240冊 児童図書 5830冊
実籾駅前広場	3億5400万円	南口駅前広場1200㎡の整備に当たり、用地取得・移転補償費

22年度予算の歳入における前年度比較

		前年度比較
国:地方交付税	10億円	2億円 増
市税	247億5253万円	8億円 減
国:生活保護費	16億1358万円	1億4784万円 増
国:子ども手当	22億4142万円	100% 増
ボートピア	1億8900万円	2100万円 減
銀行等から借金	52億5480万円	16億3870円 増
企業局(ガス事業からの借金)	3億円	100% 増(市政初)

更に積立金13億円を取り崩しての市政運営となりました。



3月議会において、市長から提案された22年度予算案など、22議案を28名の議員で審議した結果、賛成多数で全ての議案が、今年度から施行されることとなります。

私は、行政改革がままならぬと考える中で、複数の福祉手当廃止議案に対して反対の姿勢を示しました。今議会報は、市民の皆様とまちづくりを進めていく上で、市政情報の共有を図ることを目的として発行しました。

今年度、市民の皆様が納めた税金、使用・利用料、積立金、さらに銀行等からの借金を、習志野市は何に使うのかをご案内させて頂きました。



また、議案に対する私の審議態度と条例改正、廃止の内容も掲載させて頂きました。

借金残高	816億3889万円
滞納額	約 20億2437万円
・市税	個人 11億8232万 2千円 法人 2685万円
・国民健康保険	固定資産 5億5498万円
・下水道	軽自動車 1609万 1千円
・介護保険	都市計画 1億5901万円
・後期高齢者	2億1450万円
・放課後児童会	1020万円
・市営住宅	381万円
・高校(定時制)	15万 6千円
・幼稚園	300万 9千円
・保育園	2万 7千円
・衛生	4万 2千円
・学校給食	203万 7千円
	39万 3千円
	105万 3千円
基金(積立金)残高	38億9774万円
	(最大時は138億円保有)

審議結果 全て平成22年4月1日より施行

敬老祝金

伊藤ひろし 賛成 / 議会 賛成多数 影響額 133万円の減

昭和33年から今まで
満99歳 3万円 対象 27人 → 2万円
満100歳以上 5万円 対象 53人 → 3万円

認知症高齢者介護手当の廃止

伊藤ひろし 反対 / 議会 賛成多数 影響額 100万7000円の減

居宅で認知症の高齢者を介護する介護者への慰労と経済的支援の廃止

昭和60年から今まで
月額1万2650円 対象 2人 → 廃止
※寝たきり高齢者介護手当ても
廃止になりました。(対象20人)

葬祭扶助給付の廃止

伊藤ひろし 賛成 / 議会 賛成多数 影響額 243万8000円の減

火葬料や霊柩車運行料金を扶助してきたものを廃止

昭和32年から今まで
火葬料 3700円 対象 約530人 → 廃止
市霊柩車運行料 4063円 対象 115人
※馬込斎場霊柩車運行料、バス型8500円
ライトバン型5025円も扶助の廃止に。

心身障がい児童福祉手当の廃止

伊藤ひろし 反対 / 議会 賛成多数 影響額 888万9000円の減

昭和40年度から今まで

(身体障害者手帳1級・2級該当者) 月額7000円 対象 118人 → 廃止
(療育手帳A・Aの1.2・Bの1該当者) 月額4000円
知能指数50以下の者
身体障害者手帳3級・4級

68・69歳の非課税世帯の医療費助成の廃止

伊藤ひろし 賛成 / 議会 賛成多数 影響額990万8000円の減

昭和46年度より開始し、その後改正を重ね、平成16年8月より、68・69歳の非課税世帯の医療機関での窓口負担2割分の助成の廃止

平成16年8月から
非課税 68歳・69歳 窓口負担2割分の助成 対象 489人 → 廃止
(対象 255人・234人)